

ICTnews

4月に新入職員が入職してから3か月が経とうとしています。どの施設でも、業務になれ一人で出来ることが増えてきているのではないのでしょうか？

そんな時、ICTとして気になるのは、針刺し事故時の対応と予防についてです。

正しい方法で手技を行えているか？その後の針の処理は？手袋はしてる？気になることはたくさんあります。

今回は、針刺し事故をしてしまったら…という点について考えていきたいと思います。

当院では針刺し事故への対応として、流水での手洗い後 HBV・HCV・HIV・不明血液に分類されたチャートに沿って対応を行うことができるようにしています。

同時に、所属部署の課長もしくはICTに報告しその後のフォローアップを速やかに行えるようにしています。



針刺し事故をしてしまうと気分が落ち込んでしまうこともさることながら、怒られてしまうのではないかと感じてしまい言い出すことができずにいるスタッフもいるかもしれません。

報告をすることで、継続的なフォローアップができるだけでなく、内容を振り返り同様の事故を起こさないように対策をとることができます。



針刺し事故は、本人の手技的な不注意だけではなく、器材の特徴や使い方などによるものもあります。現在は安全装置付の器材も多く普及していますがそれでも正しい使い方ができていなければ防止することはできません。

個人の手技の向上も大切ですが、正しい器材の扱い方を知り針刺し事故を防止していくことが大切ではないかと思います。

また、針捨てBOXから飛び出た針で針刺ししてしまう事もあり、使用済みの針の廃棄にも注意が必要です。耐貫通性の容器に入れ8分目程度になったら蓋をする。扱いには十分に注意し、詰め込まないようにしましょう。

